



第30回 NIE全国大会神戸大会

時代を読み解き、いのちを守るNIE



【期日・会場】

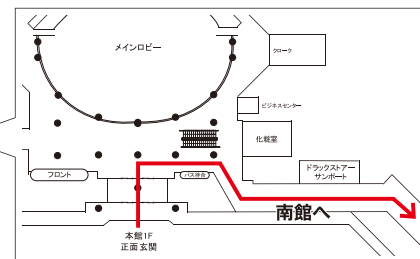
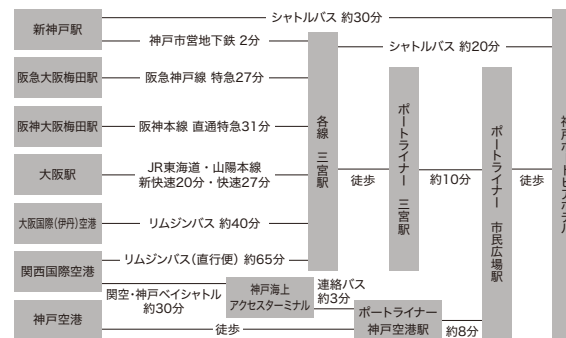
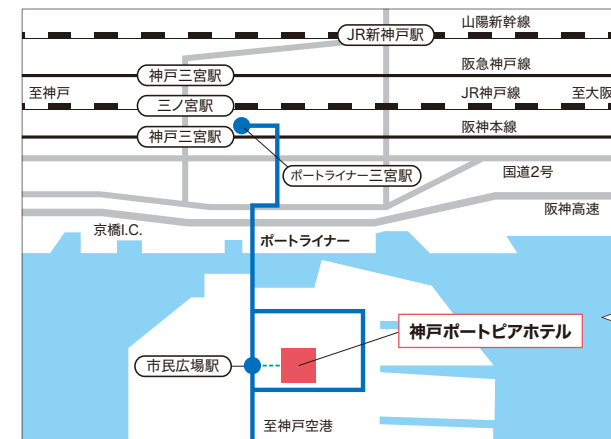
2025年7月31日(木) 神戸ポートピアホテル ポートピアホール
8月1日(金) 甲南大学 岡本キャンパス

【主催】日本新聞協会 【共催】兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会 【主管】兵庫県NIE推進協議会、神戸新聞社
【援援】文部科学省、日本NIE学会、文字・活字文化推進機構、全国学校図書館協議会、理想教育財団、兵庫県立学校長協会、兵庫県中学校長会、
兵庫県小学校長会、兵庫県私立中学高等学校連合会、甲南学園、神戸大学、兵庫教育大学、神戸学院大学、流通科学大学

【会場案内】

神戸ポートピアホテル ポートピアホール
神戸市中央区港島中町6丁目10-1

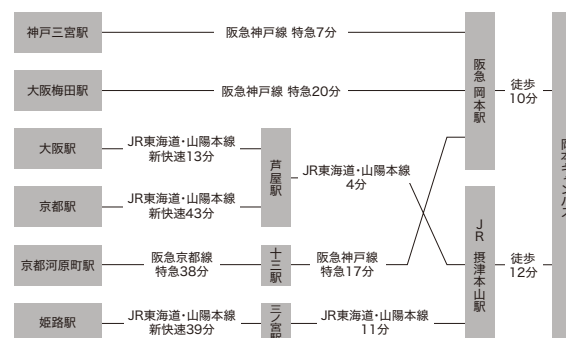
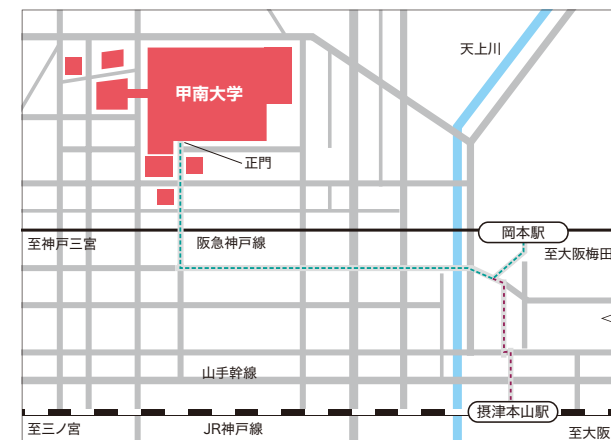
アクセス詳細



受付：南館ポートピアホール入り口

甲南大学 岡本キャンパス
神戸市東灘区岡本8丁目9-1

アクセス詳細



受付:3号館1階

【発行】
第30回NIE全国大会神戸大会実行委員会事務局
〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7 神戸新聞社内
TEL:078-362-7003
受付時間:平日10時～17時



NIE全国大会神戸大会専用サイト



NIE(エヌ・アイ・イー:Newspaper in Education)は、教育現場で新聞を活用することで社会への関心を高め、生きる力を育む取り組みです。

本大会の運営資金の一部には、一般社団法人 授業目的公衆送信補償金等管理協会 (SARTRAS) の共通目的基金、公益財団法人 中内力コンベンション振興財団、公益財団法人 理想教育財団の助成が含まれています。

1日目

7月31日(木) 全体会

会場 神戸ポートピアホテル
ポートピアホール

12:00 受付開始

13:00 開会式

佐渡裕氏(指揮者、兵庫県立芸術文化センター
芸術監督)とスーパーキッズ・オーケストラ
による演奏

13:30 主催者、来賓あいさつ

13:50 記念講演「言葉は人をつなぐ」
小川洋子氏(芥川賞作家)15:00 基調提案
竹内弘明 大会実行委員長15:10 パネル討議
テーマ:「情報で、いのちを守る」
司会池上彰氏(ジャーナリスト、名城大学教授、元NHK
記者主幹)

パネリスト

古田大輔氏(ジャーナリスト、日本ファクトチェック
センター編集長、元朝日新聞記者)阪本真由美氏(兵庫県立大学大学院 減災復興
政策研究科教授)渋谷仁崇氏(西宮市立浜脇中学校主幹教諭、日本
新聞協会NIEアドバイザー)

長沼隆之氏(神戸新聞社論説副委員長)

16:40 次回開催地主管社(中国新聞社)あいさつ

17:00 交流会
(ティーパーティー形式、冒頭に古田大輔氏ミニトークコーナー)

18:15 交流会終了

NIE全国大会神戸大会専用サイト
はこちら→参加
申し込み
受付中

6月30日締め切り

2日目

8月1日(金) 分科会

会場 甲南大学 岡本キャンパス

8:00 開場

9:00 分科会 第1部 (90分)

11:00 分科会 第2部 (90分)

12:30 分科会終了

※閉会式は、ありません
※大会終了後、全国NIEアドバイザー会議を開催

2日目

8月1日(金) 分科会プログラム

第1部

A	小学校 公開授業	「シンプリオバトル」で主体的な学びを ～「押し記事」を紹介し合う～	甲南小学校 授業者: 田代弘子 講師(司書) 宮尾友季子 教諭
B	中学校 公開授業	「NIEノート」を通して、主権者としてのまちづくり ～住み続けられるまちづくりを目指して 企業と地域との連携～	西宮市立浜脇中学校 授業者: 渋谷仁崇 主幹教諭 野上耕佑 教諭
C	小学校 実践発表	新聞を通して学ぶ ～インタビューと文章の記述～	神戸市立鶴甲小学校 発表者: 藤岡敦洋 教諭
D	小・中学校 実践発表	小中一貫として取り組む 地域を発信するNIE教育 ～「国生みの島」から～	南あわじ市立沼島小中学校 発表者: 森彩夏 教諭
E	小・中学校 実践発表	中学3年生と小学6年生が伝え合う原爆と平和	愛徳学園小中学校 発表者: 廣畑彰久 中・高校教諭 彦野周子 小学校教諭
F	小・中学校 実践発表	「？」を「！」に 新聞から始まる継続型探究学習 ～姫路の魅力発見! 未来への夢プラン～	姫路市立豊富小中学校 (後期課程) 発表者: 川村かおり 教諭(前期課程) 古寺和子 教諭(後期課程)
G	中学校 実践発表	すべての学校に新聞データベースを! ～環境整備は大人の責務～	灘中学校 発表者: 池田拓也 教諭 狩野ゆき 司書教諭
H	高校 実践発表	社会への関心を育み地域や児童と共に学びあう 防災教育	兵庫県立須磨友が丘高校 発表者: 岩本和也 教諭
I	特別支援学校 実践発表	新聞を活用して見る・聞く・知る・伝える力を身に つけ、社会とつながる 特別支援学校からの報告	兵庫県のじぎく特別支援学校 発表者: 藤本友美 現・上野ヶ原特別支援学校 教頭 さくら訪問学級担当
J	高校 実践発表	社説読み比べ ～情報の比較・検討のための新聞活用～	兵庫県立有馬高校 発表者: 森澤亮介 教諭
K	高校 実践発表	NIE活動を土台とした地域活性化への取り組み ～子育て支援やSDGsなど地域課題を考える～	兵庫県立播磨南高校 発表者: 矢野聖人 臨時講師
L	高校 実践発表	定時制高校でのNIE活動 ～気になる記事を紹介し合い、授業で活用～	兵庫県立湊川高校 発表者: 住本拓自 教諭
M	高校 実践発表	多文化共生への橋がけ ～新聞記事の「やさしい日本語」書き換えを通して～	兵庫県立伊川谷高校 発表者: 福田浩三 主幹教諭

第2部

N	小学校 公開授業	新聞で開くメディアリテラシー ～全国の子ども新聞から迫る、情報の向こう側～	姫路市立豊富小中学校(前期課程) 授業者: 前野翔大 教諭 発表者: 上田勇紀 神戸新聞社報道部記者
O	高校 公開授業	新聞に“ツッコミ”を! ～デジタル世代の「読む・問う・つなぐ」力～	兵庫県立北神戸総合高校 授業者: 久保淳平 教諭
P	小学校 実践発表	新聞4コママンガで「起承転結」を考える ～絵とセリフで読み取る力をつける～	明石市立大久保小学校 発表者: 若生佳久 教諭
Q	小学校 実践発表	新聞づくりアプリ「ことまど」を使った養父市の 産業紹介	養父市立宿南小学校 発表者: 福井克宏 主幹教諭
R	中学校 実践発表	アイデアミーティングで住み続けられるまちづくり をデザインしよう ～SDGs学習、ジュニアEXPOを通して地域産学との連携～	西宮市立浜脇中学校 発表者: 渋谷仁崇 主幹教諭 野上耕佑 教諭
S	中学校 実践発表	夜間中学でのNIE ～新聞記事から生活につながる学びを～	姫路市立あかつき中学校 発表者: 伊達実 教諭
T	中学校 実践発表	NIE俳句 ～記事の写真から豊かにイメージしよう～	姫路市立飾磨中部中学校 発表者: 佐伯奈津子 教諭
U	中・高校 実践発表	ICTで拓くNIEの新たな地平 ～情報の信頼性を確保するために～	愛徳学園中・高校 発表者: 廣畑彰久 教諭 米田俊彦 教諭 武藤邦生 神戸新聞社教育ICT部次長
V	中・高校 実践発表	NIE活動を通した多角的考察と探究的学習の推進 ～新聞の効用伝える「新聞トーク」、ライターとしての新聞作り～	甲南高・中学校 発表者: 足立恵英 副校長 敷上遼介 教諭
W	高校 実践発表	地域に根差した小高連携NIE実践 ～地域防災と防災ツーリズム～	兵庫県立網干高校 発表者: 佐々木浩二 教諭
X	高校 実践発表	地域住民とつながり生徒の世界を広げるNIE ～文化祭で高齢者と時事問題を議論～	兵庫県立洲本高校 発表者: 大石昇平 教諭
Y	高校 実践発表	新聞ポスター作成 ～社会問題について考える～	兵庫県立西宮高校 発表者: 三木美穂 教諭
Z	高校 実践発表	「神高探究Ⅰ」における新聞の活用 ～ジェンダー、東アジア、人権問題～	兵庫県立神戸高校 発表者: 松井洋平 教諭
特	特別分科会	大学生・社会人とNIE ～「情報の風景」「関心の領域」の現場から～	兵庫教育大学×流通科学大学×神戸市職員研修所 発表者: 福田喜彦 兵庫教育大学大学院教授 竹内信行 流通科学大学経済学部准教授 中川尚子 神戸市行財政局職員研修所副所長 勝沼直子 神戸新聞社執行役員論説委員長
7	ワークショップ	「防災はがき新聞」を作ろう! ～いのちを守る「備え」の種まき～	講師: 日本新聞協会 関口修司 NIEコーディネーター 協力: 公益財団法人理想教育財団

展示・発表

※いずれも各会場の開場時間中

1日目会場

神戸ポートピア
ホールロビー

◇新聞アート

●世界を舞台に新聞を使ったパフォーマンスを展開しているア
ーティスト「新聞女」こと西沢みゆきさんが、全国の2025年元
日の新聞を使って巨大なドレスを披露します。
●かつて新聞は、暮らしの中でさまざまに活用されました。新聞関
係者らが作った「しまんと新聞ばっく」の傑作集を展示します。

◇震災パネル展

阪神・淡路大震災の発生か
ら30年。自然災害が多発
する時代の「備え」について
考える機会にしたいと思い
ます。

◇学校向けサービス

会場にて、新聞社や各種団
体によるGIGAスクール時
代の「学校向けサービス」の
展示・紹介コーナーを開設。
※2日目も開催予定

2日目会場

甲南大学
岡本キャンパス

◇ポスター発表

NIEや新聞を活用した研究
発表などに取り組んでい
る学校や各種団体がポス
ター形式で活動について発
表します。